

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当金 3月31日 中間配当金 9月30日(当事業年度の中間配当の予定はございません)
公告の方法	電子公告により、当社ホームページ( <a href="http://www.fujipream.co.jp/">http://www.fujipream.co.jp/</a> )に掲載いたします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告によることができない場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 電話0120-094-777(通話料無料)

## ご注意

- 1 株主様の住所変更、買取請求、その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 2 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取次ぎいたします。
- 3 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

### フジプレアムと社会を結ぶ情報誌

## PRE [プレ]

フジプレアムの「プレ」は「先駆ける」、「アム」は「存在」という意味が込められています。この「プレ」をタイトルにした株主通信は、株主の皆様に必要な経営情報を先駆けてお届けし、フジプレアムと社会との関わりを分かりやすくお伝えするとともに、当社が誇る技術や将来性などをご紹介します。



特集

タッチパネルの大型化・多用途化を支える

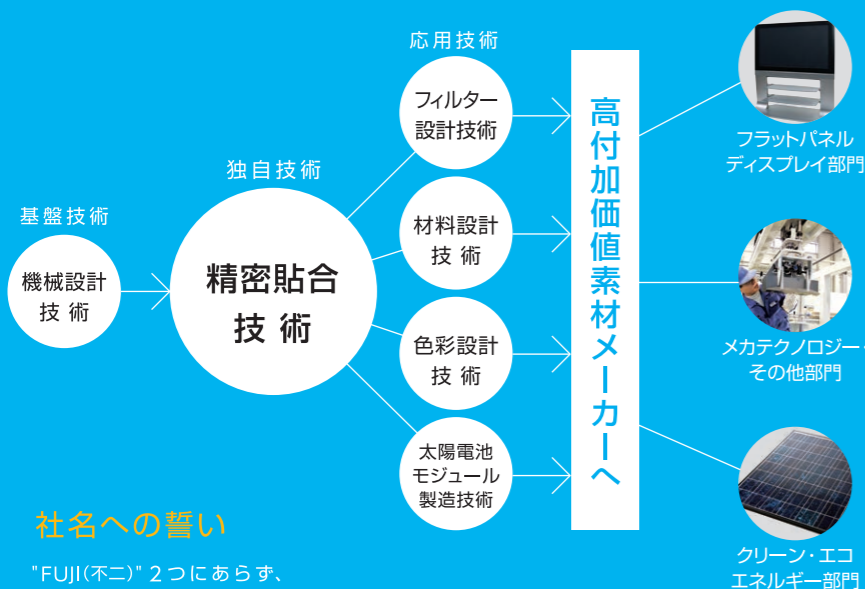
高効率ダイレクトボンディング量産化技術

# 不可能への挑戦

フジプレミアムは「不可能への挑戦」を掲げ、未来を切り開く研究開発型企业です。

## 経営ビジョン

フジプレミアムは、精密貼合技術を活かし、新たな価値を創造する素材メーカーを目指します。



## 社名への誓い

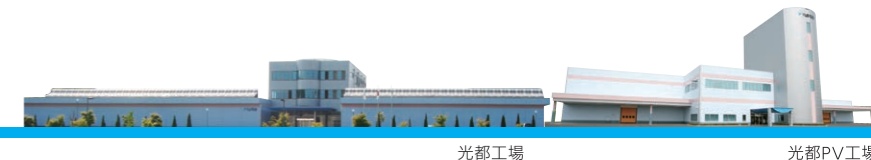
"FUJI(不二)" 2つにあらず、  
"pre" 先駆けて、"am" 存在する企業でありたいと、  
常に「不可能への挑戦」を心がけています。

## 経営理念

「人」は「財」なり、「財」は「人」作りなり  
創意、継続は大いなる「財」なり  
自然は大いなる「恵」なり。  
全てに対して大いなる「感謝」

高度情報化  
社会

地球環境  
共生社会



100年先の暮らしを照らすため、自らに与えられた使命を果たす。  
「共存・共生・共産」の理念で、住みよい社会づくりを目指します。

金融緩和政策、円安・株価の上昇などで企業収益は改善。  
強みとする独自技術を物づくり分野に展開し可能性を広げていく。

株主投資家の皆様には、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より、フジプレミアムグループの事業につきまして格別のご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。ここに第32期(平成26年3月期)第2四半期報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

現在、わが国経済は、政府による金融緩和や経済対策の効果が期待される中、円安や株価の上昇に伴い企業収益の改善が見られる等、緩やかな回復基調で推移しております。しかしながら、新興国の成長鈍化への懸念や長引く欧州債務問題、輸入原材料価格の上昇等から、先行きは不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当社グループの主力事業であるフラットパネルディスプレイ部門におきましては、低迷していた薄型テレビ中心の市場に代わって、タッチパネル等の新機能を搭載した新しいタイプのディスプレイ市場が急速に拡大してきております。この市場におきましては、弊社独自の貼合技術であるダイレクトボンディングが有効に活用でき、他社では難しいとされている生産の高度化や効率化を可能にし、フジプレミアム本来の強みを発揮してきております。

クリーン・エコエネルギー部門におきましては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度の追い風の中、競争激化による価格下落は継続しているものの、着実に実績を積み好調に推移しております。特に独自技術で開発した超軽量太陽電池モジュールは、他社にはない商品として販売拡大に大きく貢献いたしました。また今年4月より農地への太陽光発電システム設置に対する規制が緩和され、弊社で開発したトラッキングシステムが自治体との共同事業に採用されるなど新たな市場開拓の可能性が広がっております。この様にフジプレミアムは、これからも独自技術を物づくりの分野に展開して、事業の可能性を広げ、社会に貢献できる企業であり続けたいと考えております。

今後ともあたたかいご支援、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 松本倫長



## タッチパネルの大型化・多用途化を支える、 高効率ダイレクトボンディング量産化技術。

スマートフォンやタブレット端末、電子ブックなど、わずか数年の間に、急速に普及が進んできたタッチパネル。見るだけでなく、指で触って操作ができる画面は、今後も幅広い分野での活用が期待され、これからのライフスタイルやワークスタイルを大きく変えるほどの可能性を持っています。そんな中、タッチパネルの新たな市場、特に大型タッチパネルの開発ニーズにおいて、当社の「高効率ダイレクトボンディング量産化技術」が注目を集めつつあります。そのニーズと展望について、代表取締役社長・松本倫長が語ります。



※ダイレクトボンディングとは  
ガラスとガラスなどの硬質パネル同士を樹脂やOCAを用いて直接貼り合わせる方法。パネル間に空気層が入る従前のエアボンディング方式より反射や視差を低減できるが、気泡の混入などを回避する高い技術が求められる。

### 市場のニーズに合わせて生まれた、 ダイレクトボンディング。

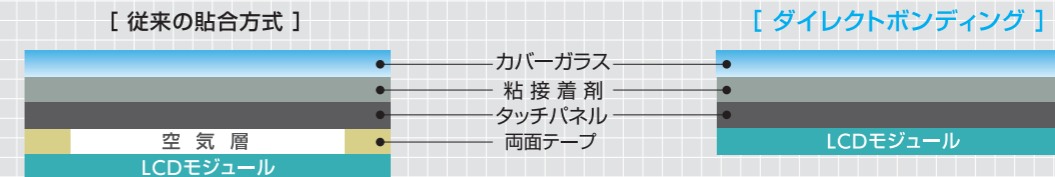
タッチパネルがディスプレイの主流となりつつある今、タッチパネルと液晶を貼り合わせる技術への需要が高まっています。また、タッチパネル自体をつくる際にも、指の動きを感知するセンサ部分やカバーガラスを貼合する必要があります。これらはいずれも硬い素材同士であり、フィルムなどの柔らかい素材を貼合する場合と比較して、より高度な技術が求められます。そんな中、強みを発揮するのが、当社の高効率ダイレクトボンディング量産化技術です。

従来は、両面テープでタッチパネルと液晶の端を貼り合わせる方法が一般的でした。しかし、この方法では間に空気層が生まれ、さまざまなデメリットが生じてしまいます。そのひとつは、画像の鮮明度の劣化。今後、タッチパネルの市場では、スマートフォンなどの小さなディスプレイ

だけでなく、商業施設のデジタルサイネージ(電子看板)や、会議室のホワイトボードに代わるパネルなど、大型化へのニーズの高まりが見込まれています。そして、画面を見ながら触って操作することを前提としているタッチパネルは、大画面であっても至近距離からの観賞に堪えられる画像の鮮明さが求められるため、空気層は好ましくありません。また、乗り物に搭載するカーナビなどの場合、空気層があることによって運転中にパネルの振動が生じ、画面が見づらくなってしまう場合があります。そこで、素材同士を直接全面貼り合わせて一体化させ、空気層を無くす方法が、ダイレクトボンディングです。そして当社は、大型タッチパネルのダイレクトボンディング技術において、世界に先駆けて高効率化と量産化を実現しました。

(次頁へつづく)

### 従来の貼合方法とダイレクトボンディングの比較



空気層が生じることにより、視認性の低下をはじめ、強度の低下、異物混入のリスクなどを招く。

全面を直接貼り合わせることで空気層を無くし、視認性や強度を向上。大型タッチパネルでも鮮明な表示を実現。

# 暮らしを変える タッチパネルの可能性

～オンリーワンの貼合技術が、タッチパネルの未来を切り拓く～

自社で設備と技術を開発し、  
圧倒的な競争力を生んでいく。



ダイレクトボンディングという考え方自体は、今や珍しいものではありません。しかし当社のように、自社で設備と技術の開発を行っている会社は、おそらく他には存在しません。独自の技術と設備により、高い生産効率と

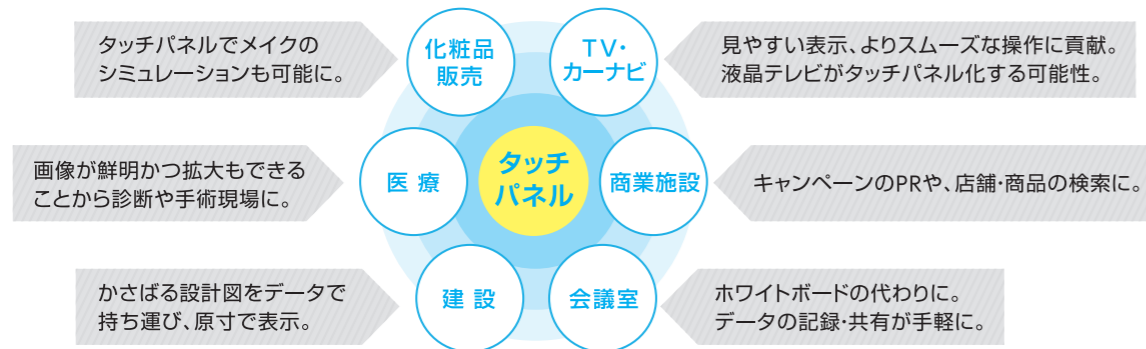
歩留まりを達成し、その結果としてコストを抑え、量産化への対応を可能にしているのです。

そして、自社で生産設備を構築できることは、求められるニーズに合わせた柔軟な対応や、フィードバックの早さ、

品質の向上など、さまざまな顧客価値につながっています。また、ディスプレイやタッチパネルという先端的な製品においては、使用される素材も絶えず変化します。その変化にも迅速に対応することで、圧倒的な競争力を発揮できると考えております。

では、今後タッチパネルの市場は、どのように発展していくでしょうか。先程申し上げたような、商業施設や会議室に向けた大型タッチパネルをはじめ、化粧品や医療、建設など、多岐にわたる分野での活用が期待されています。近い将来、現在のテレビの概念を超えた、新しい情報機器も誕生するかもしれません。タッチパネルは、私たちの暮らしや働き方を、さまざまな面から変える、大きな可能性を持っています。今後期待される市場の需要増加と多様化に向けて、高効率ダイレクトボンディング量産化技術にさらに磨きをかけ、万全の体制を整えていきます。

## ■ 多彩な分野で期待が高まる、タッチパネルの可能性



## ●ダイレクトボンディング レポート

### 高効率ダイレクトボンディング 量産化技術が、 大型タッチパネルに強い理由。

当社の高効率ダイレクトボンディング量産化技術は、特に大型タッチパネルにおいて強みを発揮します。その理由や開発の背景について、新規生産技術開発センター、ファインテック事業部、市場開拓営業部の3人が語ります。



新規生産技術開発センター 副センター長 杉本 正則	執行役員 生産本部長 兼 ファインテック事業部長 森田 晃史	市場開拓営業部 副部長 三村 崇裕
---------------------------------	--------------------------------------	-------------------------

**杉本**：他社のダイレクトボンディングは、素材と素材の間にUV硬化樹脂を流し込み、紫外線をあてて硬化させることで貼合しています。この際、樹脂に気泡が生じないように真空状態を作り出さなければならず、「真空貼り」と言われることもあります。この真空状態を作るためには、大がかりな設備が必要となり、その分コストも高くなってしまいます。ですから、大きなタッチパネルになるほど、それを貼合できるメーカーの数は少なくなります。



**森田**：これに対して当社は、「大気貼り」と言う、真空状態を必要としないダイレクトボンディングに成功しています。これにより、大型タッチパネルであっても、効率的に生産することが可能になりました。他社には真似のできない技術です。もちろん、その開発は簡単ではありません



でした。一見成功したかのように見えた貼合でも、信頼性試験を行うと気泡が生じてしまうなど、トライ&エラーの連続でした。100通り以上の条件を試して、ようやく実現した技術です。

**三村**：ダイレクトボンディングによる小さいサイズのタッチパネルは、既に市場に存在しています。しかし、30インチを超えるような大きなものとなると、まだ



市場にはほとんどありません。そこで現在、各電機メーカーさんから、「大型タッチパネルを活用した製品を開発したい」というお話をいただくことが増えています。そして既に、パソコン向けのタッチパネルなどで、量産化を開始しています。大型タッチパネルの貼合技術において、当社は世界をリードしており、製品化・量産化に向けて、いくつものプロジェクトが動き出しています。

## 香寺農地で田植えと稲刈りをしました

香寺農地では、6月末に田植えをし、7月5日（金）に姫路市と竣工式を行い、稲穂が実った10月17日（木）に稲刈りを行いました。

追尾型太陽光発電システム（トラッキングシステム）は、支柱上の太陽光発電パネルが自動で太陽の方角を追尾し発電効果を高めるもので、同容量の固定型システムと比べ、積算発電量が約1.4～1.5倍という特長があります。（当社比）

このシステムのメリットを活かし、姫路市との共同研究事業として、市所有の農地（香寺町）にこのトラッキングシステムを設置し、実際に水稻などの耕作をしながら発電システムを稼働させ、営農しながら売電できる、「農業収入」+「売電収入」の両立が可能な新しい農業経営モデルの検証を行っています。

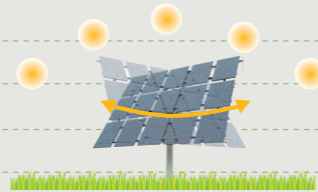
今回、初めての試みですが、無事稲刈りを終えることができました。



松本社長（左から2人目）と石見市長（左から3人目）

### 追尾型太陽光発電システム（トラッキングシステム）の特長

取り付けられた太陽光発電パネルが自動で太陽の方角を追尾し、高い発電量を実現します。



#### 田植えの様子



#### 稲刈りの様子



## トピックス Topics

### TOPICS 01 光都工場において 決算説明会、株主総会を開催



平成25年3月期 決算説明会  
■平成25年6月21日（金）15:00～  
■光都PV工場2F 多目的ホール



第31回 株主総会  
■平成25年6月27日（木）10:00～  
■光都工場2F 多目的ホール

### TOPICS 02 「PV Japan 2013」へ出展

7月24日（水）～26日（金）の3日間、太陽光発電の一大イベントである「PV Japan 2013」（東京ビッグサイト）に当社も出展しました。ブースでは、展示用のトラッキングシステムや超軽量太陽電池を展示しました。



2013 6 June

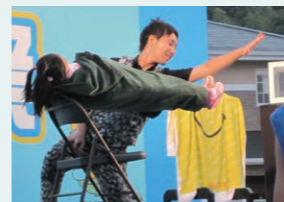
7 July

8 August

10 October

### TOPICS 03 第22回フジプレアム 納涼祭を開催

8月3日（土）、第22回目となるフジプレアム納涼祭を開催しました。きれいな歌声や豪快なマジックショー、また事業部対抗「早食い競争」では一般参加チームが優勝し大変盛り上がりました。従業員がスタッフとなり、お・も・て・な・し精神で、全員で楽しみながら地域の人々とふれあう絶好の機会となりました。



### TOPICS 04 「国際農業資材EXPO AGRITECH(アグリテック) 2013」へ出展

10月9日（水）～11日（金）の3日間、「国際農業資材EXPO AGRITECH(アグリテック) 2013」（幕張メッセ）に当社も出展しました。過去出展してきた展示会とは異なり、農業に従事する方が多く来訪され、今までPRできなかった客層の方々に、太陽光発電の基礎からトラッキングシステムに至るまで、農地に有効活用できることを、幅広く理解していただく機会となりました。

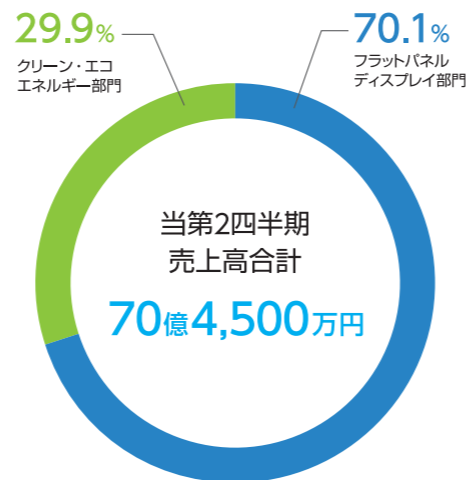


# Segment Information

## 四半期純利益3億8,400万円確保

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、安倍政権による経済対策への期待感を背景に、円安による輸出環境の改善や株価の上昇に伴い、企業収益の改善が見られる等、緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、新興国の成長鈍化への懸念や長引く欧州債務問題、輸入原材料価格の上昇等から、先行きは不透明な状況が続いております。このような状況の中、当社グループの主力事業であるフラットパネルディスプレイ部門におきましては、タッチパネルや次世代ディスプレイ関連の市場が伸び、堅調に推移いたしました。また、クリーン・エコエネルギー部門におきましては、再生可能エネルギーの固定価格買取制度により、産業用の需要が活況で、好調に推移いたしました。

この結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高7,045百万円(前年同四半期比35.1%増)、営業利益732百万円(同122.5%増)、経常利益768百万円(同120.4%増)を計上し、四半期純利益は384百万円(同265.2%増)となりました。



### フラットパネルディスプレイ部門



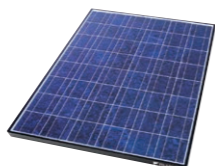
第32期第2四半期売上高  
49億4,100万円

### 営業利益4億8,200万円

当部門につきましては、国内外市場におけるテレビ市場は、北米や欧州においては低迷しているものの、一時の急激な価格の下落には歯止めがかかり、新興国においては堅調な推移を見せております。一方、昨年より注力しておりますタッチパネル市場におきましては、パソコン・デジタルサイネージ・タブレット・電子黒板等に使われる用途が広がり、生産量も拡大しております。また、3D・高精細ディスプレイ用の部材の生産量も拡大しております。このような市場の変化の中、独自のダイレクトボンディング技術を活用し、新規生産設備の導入による生産の高度化や効率化、更に、全社に亘るコストダウンと経費の削減を徹底し、一層の事業体質の強化を図りました。

この結果、売上高4,941百万円(前年同四半期比32.3%増)、営業利益482百万円(同86.9%増)となりました。

### クリーン・エコエネルギー部門



第32期第2四半期売上高  
21億400万円

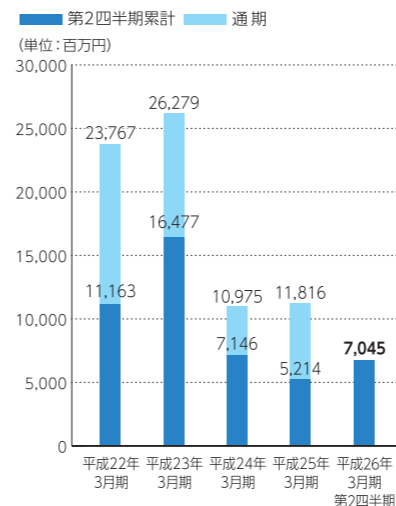
### 営業利益2億3,200万円

太陽電池の国内市場は、産業用では、昨年からの再生可能エネルギーの固定価格買取制度の導入により、メガソーラーや工場・倉庫等大規模な設備への設置が進んでいることとともに、中小規模の発電システム導入の需要が急速に拡大いたしました。また、昨年発売した超軽量太陽電池モジュールは、多くの屋根設置の受注を獲得し、販売量増加に貢献いたしました。一方、住宅用の市場は、既存の販売店・旅行店が住宅用から産業用に営業力をシフトしていることにより、販売量の拡大の勢いが低下する傾向にあるものの、堅調に推移しております。独自の技術で開発した超軽量太陽電池モジュールの販売拡大、新たな設置用途の拡大による新市場の開拓、更に、今年4月より規制緩和された、農地へ設置可能なトラッキングシステム等の新しい発電システムの展開等に努めてまいりました。

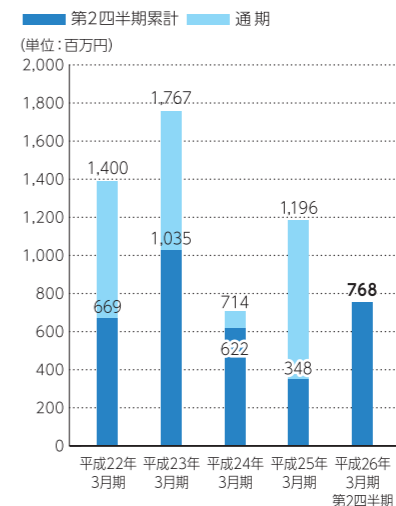
この結果、売上高2,104百万円(前年同四半期比42.2%増)、営業利益232百万円(同329.9%増)となりました。

# Financial Highlight

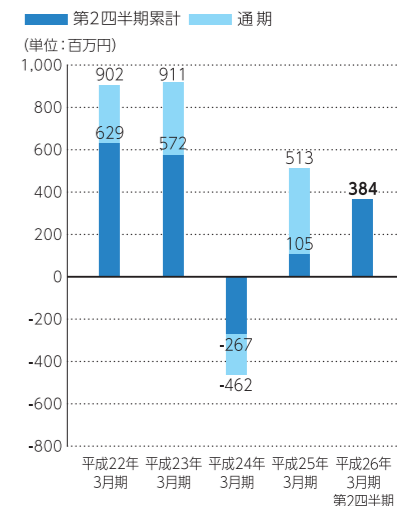
## 売上高



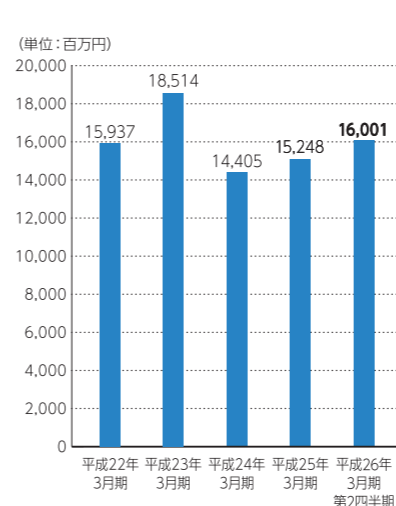
## 経常利益



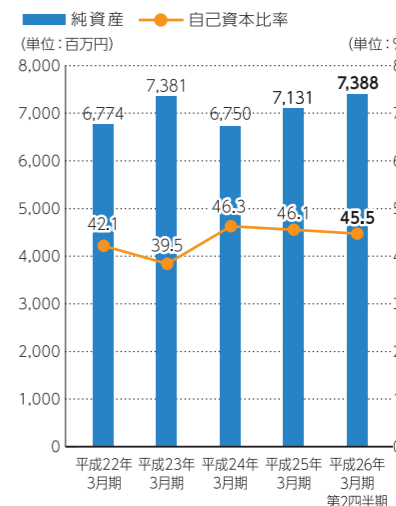
## 純利益



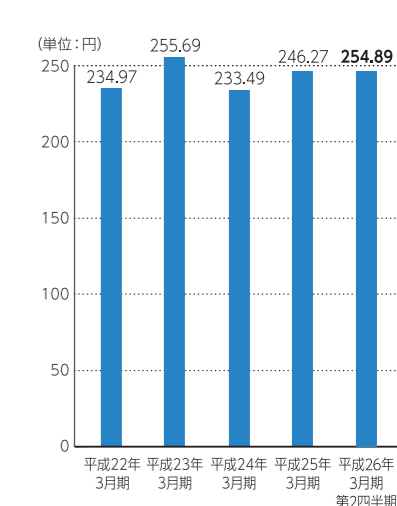
## 総資産



## 純資産・自己資本比率



## 一株当たり純資産



連結財務諸表  
Financial Statements

※記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

第2四半期 連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成25年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成25年3月31日)
流動資産	9,618,516	8,763,059
現金及び預金	4,032,179	4,203,480
受取手形及び売掛金	2,328,544	3,039,857
商品及び製品	1,757,010	515,810
仕掛品	330,312	264,405
原材料及び貯蔵品	993,325	644,831
その他	183,932	105,612
貸倒引当金	△6,788	△10,938
固定資産	6,382,657	6,485,935
有形固定資産	6,054,107	6,175,142
無形固定資産	19,315	19,279
投資その他の資産	309,233	291,513
資産合計	16,001,173	15,248,994

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結会計期間末 (平成25年9月30日)	前連結会計 年度末 (平成25年3月31日)
流動負債	5,570,796	5,541,708
支払手形及び買掛金	1,885,978	1,792,885
短期借入金	1,450,000	1,450,000
1年内返済予定の長期借入金	1,647,376	1,457,679
未払法人税等	420,958	344,372
賞与引当金	16,444	15,688
その他	150,038	481,083
固定負債	3,041,470	2,575,441
長期借入金	2,522,195	2,102,013
その他	519,275	473,428
負債合計	8,612,266	8,117,150
株主資本	7,240,951	7,027,592
資本金	2,000,007	2,000,007
資本剰余金	2,440,803	2,440,803
利益剰余金	3,664,031	3,450,671
自己株式	△863,890	△863,890
その他の包括利益累計額	42,424	9,622
少数株主持分	105,531	94,629
純資産合計	7,388,907	7,131,843
負債純資産合計	16,001,173	15,248,994

第2四半期 連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)
売上高	7,045,982	5,214,629
売上原価	5,767,637	4,379,486
売上総利益	1,278,344	835,143
販売費及び一般管理費	546,174	506,149
営業利益	732,170	328,994
営業外収益	58,075	49,109
営業外費用	21,537	29,353
経常利益	768,708	348,750
特別損失	1,378	22,500
税金等調整前四半期純利益	767,330	326,250
法人税、住民税及び事業税	409,909	108,745
法人税等調整額	△38,290	108,726
少数株主損益調整前 四半期純利益	395,711	108,777
少数株主利益	10,901	3,409
四半期純利益	384,809	105,367

第2四半期 連結包括利益計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)
少数株主損益調整前 四半期純利益	395,711	108,777
その他の包括利益	32,802	817
その他有価証券評価差額金	9,556	△5,363
為替換算調整勘定	23,245	6,181
四半期包括利益	428,513	109,595

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当第2四半期 連結累計期間 (平成25年4月1日から 平成25年9月30日まで)	前第2四半期 連結累計期間 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	△560,962	615,501
投資活動による キャッシュ・フロー	△298,297	△187,163
財務活動による キャッシュ・フロー	433,076	△1,025,861
現金及び現金同等物に係る 換算差額	3,141	2,482
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△423,042	△595,040
現金及び現金同等物の 期首残高	3,974,785	4,552,829
現金及び現金同等物の 四半期末残高	3,551,743	3,957,788

# Profile

## 会社概要

(平成25年9月30日現在)

商号	フジプレミアム株式会社 Fujipream Corporation (英)
本社所在地	兵庫県姫路市飾西38番地1
設立	昭和57年4月14日
代表者	代表取締役社長 松本倫長
資本金	2,000百万円
事業内容	薄型テレビ用光学フィルター関連事業 光学製品関連事業 太陽光発電関連事業 他
従業員数	262名 (連結・臨時雇用含む)
営業所及び工場	本社 姫路工場 播磨テクノポリス光都工場／研究所／PV工場 東京オフィス
連結対象となる子会社	フジプレ販売株式会社(設立:平成13年4月) 上海不二光学科技有限公司(設立:平成15年9月)
主要取引銀行	三菱東京UFJ銀行／みずほ銀行

## 取締役及び監査役

(平成25年9月30日現在)

代表取締役社長	松本 倫長
常務取締役	澁谷 尚
取締役	名村 信彦
常勤監査役	松本 毅 (社外)
監査役	片岡 智彦
監査役	木村 裕史 (社外)
監査役	瀧元 一 (社外)

## 株式の分布状況

(平成25年9月30日現在)

会社が発行する株式の総数	105,000,000株
発行済株式の総数	29,786,400株
株主数	4,464名

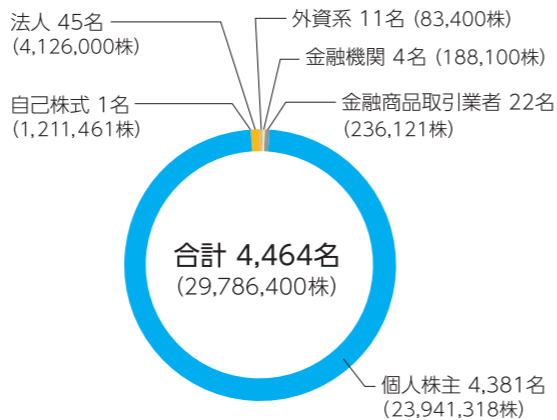
## 大株主の状況

(平成25年9月30日現在)

松本 實藏	13,130,700株
松本 倫長	2,441,400株
松本 庄藏	1,854,000株
東レ株式会社	1,560,000株
フジプレミアム株式会社	1,211,461株
旭硝子株式会社	936,000株
リンテック株式会社	936,000株
ジェイアンドエム株式会社	475,500株
松本 春代	360,000株
松本 守雄	330,000株

## 株式分布状況

(平成25年9月30日現在)



# HARIMA-TAMBOU 播磨探訪

Vol.26  
大河ドラマに、湧く播磨

## 姫路生まれの名軍師 黒田勘兵衛 ゆかりの地を巡る

平成26年1月5日、NHK大河ドラマ「軍師勘兵衛」の放送が始まります。その主人公は、姫路城で生まれ、豊臣秀吉を天下人へと導いた名軍師として知られる黒田勘兵衛(くろだかんべえ)。勘兵衛が約40年の歳月を過ごした播磨の地には、その足跡がそこかしこに残っています。大河ドラマに向けて、「イメージキャラクター」かんべえくんや大河ドラマ記念館、地元ボランティアの方々によるガイドなど、地域をあげて盛り上がりを見せる播磨。この機会にぜひ、名軍師ゆかりの地を巡ってみてはいかがでしょうか。



黒田 勘兵衛  
イメージキャラクター  
かんべえくん



### 黒田 勘兵衛とは、どんな人物？

天文15(1546)年に姫路城で生まれ、22歳で城主となった黒田 勘兵衛。いち早く織田信長の才能を見抜き、信長に味方するよう播磨の大名を説得してまわりました。さらに、本能寺の変によって信長が命を落としたとき、嘆き悲しむ秀吉に、明智光秀を討つよう進言。勘兵衛の言葉が「中国大返し」といわれる歴史的強行軍につながり、秀吉を天下人へと導いたのです。

平成26年1月26日、姫路城南・家老屋敷公園内にオープンする予定の「ひめじの黒田勘兵衛大河ドラマ館」完成イメージ。



### 1. 姫路城「天空の白鷺」

姫路市本町68番地  
☎079-287-2013

勘兵衛が生まれ、城主を務めた姫路城。現在は保存修理が行われていますが、完成が近づいた姫路城大天守の姿を間近で見学することができます。(平成26年1月15日まで)



### 2. 広峯神社

姫路市広嶺山52  
☎079-288-4777

祖父・重隆の代に備前福岡から姫路へ移ってきた黒田家。広峯神社に住まいながら、秘伝の目薬に神社の札をつけて売り、大きな財を成したとされています。



### 3. 御着城跡公園

姫路市御国野町御着御着城跡公園  
☎079-287-3808

重隆の代に仕えた御着城。現在は公園として整備され、御着城をモチーフとした市役所出張所や、勘兵衛の祖父・重隆と母・明石氏が祀られた廟所(びょうしょ)もあります。